

夜間学校二週

みんなの問題だ!!

目立つ腰痛・労災後遺症

（春の医療週刊 報告）
今夜7時より、市民館3階にて

4月25日と30日の間、釜ヶ崎医療連絡会議が中心となり、「春の医療週刊」を計画し、医療相談を行ないました。

29日を除く、5日間で108枚の医療券を発行し、医療センターで診療を受け、84名が市更相に相談に行きました。

病気別に分類してみると、一番多いのは、腰痛、腰椎症、関節炎(痛)、頸椎症などの筋骨格系です。骨折、傷など

春の医療週刊 報告

の損傷、不慮の事故を合わせる

と、全体の40%近くを占めます。

次に多いのは、肝障害、肝硬変、胃かいようなどの消化器

系統です。これは多分に、アルコールが影響しているのでは

う。あと、高血圧、10人、肺結核、8人とありました。

このようにみえてみると、たとえ、今、健康とあっても病気など

自分とは関係ないと言いつつ切れない

いのではないのでしょうか。

医療週刊に受診した人の平均年齢は、62才です。仕事のない時期だったため、長年の肉体労働の結果、身体をこわし、仕事にもつけないで困っていた労働者にも、この年代の人が一番多かったのです。

その上、市更相の対応は、いつものようにひどいものでした。これぐらいの病気ではダメ、自分で働け、働けないから相談に行、こいるのに

「以前、入院していたからダメ、など、頭ごなしにどなられる」とは、相談に行ったことがある人は、よくわかると思います。却下された人が、今後、どのように生きていくのか、思いをさせない職員の態度に怒りを感じます。

今日は、「病気」について、仕事との関係について、自由に話し合いたいと思っております。お気軽に参加して下さい。

みんなのびくろくろくみんなの会館

お盆には、一万円握って、三角公円へ!

郵便ふりかえし、ごきました。

愉快なイラスト入り

ハンカチ・手ぬぐい

資金カンパよろしく

あいらん地区(西成区・釜ヶ崎)の労働者が、文化活動や憩いの場にと「釜ヶ崎会館」の建設運動を進めているが、このほど資金調達の一助になるイラスト入りハンカチと手ぬぐいが出来上がった。ハンカチは、西成労働福祉センター職員で広報紙「センター

二年ほど前から労働者が作る文化運動グループ「創造広場」に参加。肉休労働と制作が半々の生活の中で、労働者の雑誌「労働者世界」に四コマの作品を連載している。手ぬぐいには、労働者の朝、昼、晩をテーマとしたイラストが描かれた。

「釜ヶ崎会館」は、今秋の完成を目指し、図書室、集会所、喫茶室のほか、労働相談や印刷コーナーを設ける予定。約四千万円のカンパを兼ね、中古の建物を購入する計画で、資金集め

会館はあつた

「会館づくり」の苦味

「会館づくりは今——中間報告と今後」

前回の夜間学校の報告

いま、金ヶ崎にわしらがくつろげる場——とこころなことをかぞえる場所として会館をつくるという運動がおこなわれています。この夜間学校も設立委員会にはいつて運動の一翼をになつていこうとこころをします。さきど

前回「会館づくり」は今どのくらい進んでいるのか、今後、この運動を広げようにはどうしたらよいかについて話し合いました。

自分らの力でつくること

「会館をつくるのはいいことだ」と思う。寿町にもいたことがあ

るが、あそこは何でもある。山

谷に行つても旅館の証明をきいてくれる。しかし、金を集めるのがむずかしい。自分がもし一万円もつたらやはりギャンブルにつかうだろうし。「自分らの力でつくる」というのがだいじなのだ。もし、わしらが会館をつくることになったら、その力が他のことに発揮されるのではないか。人の家というのはつくつてきたが、わしらには何も残っていない。少しづつでも金をためていけばなんとかなるのではないか。し

「それができたら、今、金に

はいない。」

「どういう、今までのわしらがみれば不可能と思えることをあえてやろうというのが会館づくりなのだ。」

「今わしらのやりたいことをやるうではないか」

「きょうは雨だつたから、天王寺図書館に行つてみた。あみぜいの労働者がまきいて、そこがたまり場になつていた。雨がふつたら他に行くところもない。会館みたいなのところがあれば、こういうときはいいだろうと思つた。」

「金ヶ崎にも施設はいろいろあるが、わしらが自由に使えるというものではない。取壊、青がしめて、どうしようもないからという所をつくつていかんと、行政がつくつてくれるのを待つ、それはあかん。」

「いま、わしらは自分のやりたいことをやつていないのではな

いか。」

「しかし、わしらが死んでから会館ができてもなんにもならないし。」

「一応のメドは今年の夏にひいてる。」

「何のために、わしらは生活せんとかあんのが、自分らの力で会館をつくるという目的をもつことが必要ではないか。」

「このあと、「会館づくり」の運動を広げようするための具体的な案がいろいろ出されました。「センターに看板を出せ」「署名を集めた」「大阪市」もいろいろか援助させる」「外部にも働きかける」

「会館をいらく」などをいす。水にせよ、わしらの力でわしらの会館をつくるうではありませぬか。

最後に、神戸方面のネタオチ飯場

にいた参加者から、その飯場の様子

の様子が話されました。紙面がなくなつてくわしくは書けません。式が、

く、実働20日、三万五千円にしかならなかつたそうです。